

# 和歌山市雑賀崎 LPP

## 雑賀崎の観光コンテンツの発信と空き家の利活用



1

### 雑賀崎 LPP の概要

活動経緯や雑賀崎の魅力

雑賀崎 LPP は 2022 年度より発足した LPP であり、今年度は雑賀崎地域の NPO 法人である「さいかざきポッセ」や和歌山県の職員の方、雑賀崎に住む方々のご協力のもと、活動を行ってきた。

雑賀崎 LPP では、少子高齢化が進行するこの町を、観光まちづくりで活性化させ、若者に親しんでもらえるような町にすることを目的としている。

昨年度までは主に雑賀崎地域を知り、地元住民と観光客の共有方法についての活動を実施していた。今年度は雑賀崎の特徴である空き家の多さに注目し、活用方法について意見を出し合ってきた。

雑賀崎は和歌浦を構成する町の 1 つである。建ち並ぶ家々の並びがイタリアのアマルフィに似ていることから、「日本のアマルフィ」と呼ばれ、イタリアとの親交も深い。その象徴として、旧雑賀崎小学校跡地に地域の方によりつくられたレモンの丘には、レモンが植えられている。

#### 雑賀崎の魅力ポイント

レモンの丘、トンガの鼻、雑賀崎灯台、立ち並ぶ家々、漁船から直接魚を購入できる「はたうり」など...

#### 雑賀崎 LPP の活動形態

- ・L 活（学生主導型）として活動
- ・週一回程度のミーティングを実施
- ・メンバーは 1 回生 3 人 2 回生 4 人

## 2 活動内容



### 空き家モデル事業への参加

#### 高野山でのアンケート調査

外国人観光客をターゲットとし、アンケート調査を実施。雑賀崎の認知度や漁村地域への関心を調査。雑賀崎地域や美浜町三尾に関する知名度や訪問意向の情報を得ることができた。（結果は下記参照）三尾地域は本宮大社で実施。

#### 空き家マップの作成

雑賀崎地域には空き家が多いという現状を受け、地域住民の方に聞き取り調査をしたり、実際に外観を見て回ったりしながら 1 枚のマップにまとめた。使用可能な空き家や空き地などそれぞれ色分けを行った。

#### ワークショップへの参加

11 月、1 月と 2 度参加。SWOT 分析等を通して雑賀崎地域の強み・強みを再認識しつつ、それらを生かした具体的な事業計画と収支計画を考えた。空き家利活用のノウハウを中心に学ぶことができた。

#### 空き家モデル事業とは？

空き家を活用したまちづくりプランを作成するための和歌山県のモデル事業。具体的な事業の提案を行い、次年度以降、機運を醸成していくことを目的とする取り組みである。雑賀崎と美浜町三尾地域の 2 箇所で実施。



### イベントの企画・運営補助

10 月に NPO 法人さいかざきポッセが主催する「リターンさいかざき」というイベントの運営補助を行った。灘の浜で回収した海ゴミを用いたアート作品の製作といった企画を自分たちで考え、実施した。2 月のイベントでも子供向けの企画を実施予定。

#### 目的

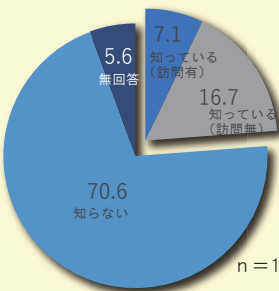
子供たちに雑賀崎の良さを知ってもらい、好きになってもらうことで将来も雑賀崎に残ってもらおう。若者によって町を活性化させたいといった町の方の意向も込めて計画した。

#### 子供の作品

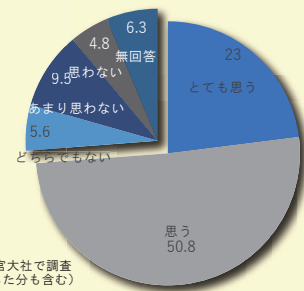


シーグラスや PET を利用。

### 雑賀崎の認知度



### 地方の農漁村を訪問したいと思うか



n = 126 (本宮大社で調査した分も含む)

高野山で実施したアンケート調査によると、雑賀崎の認知度はまだまだ低いが、改善の余地は十分にあると考えられる。

雑賀崎を知っていて実際に訪問したことがあると答えた方の割合は 7.1%。雑賀崎を知っているが訪問はしたことが無いと答えた方の割合は 16.7%。高野山・本宮大社に訪れた外国人観光客で、雑賀崎について知っている人は 23.8% である。

7 割以上の人が雑賀崎を知らないが、漁村地域に訪れてみたいと考えている人は、73.8% である。外国人観光客にどの様なところに魅力を感じるか尋ねると、漁村地域特有の自然環境・釣り・食文化等が多く挙げられたため、これらのコンテンツを生かすことが出来れば、観光客を誘致していくことができる。

## 3 活動を通じて

### 今年度の活動について

空き家の利活用について考えたり、地域の方々と交流したりすることによって、雑賀崎の魅力だけではなく、空き家の現状や課題など様々な問題点も見えてきた。今年度は、それらについて理解を深め、来年度につながる学びを得ることができた。

### 次年度以降の活動について

今年度は雑賀崎の空き家に関する現状や課題を知ることができたため、次年度からはより実践的な活動に入って行く。若い世代で雑賀崎が賑わう、そんなあたたかな場所を作り、空き家問題を解決するための一歩となる活動を行っていく予定である。